



官学連携に関する協定締結式

アブラメも、刺し身は時間を置いた方が旨いことが分かった。さらに、調査・研究を続けていくうちに「階上町のアブラメは旨い！」ことが分かってきた。そこで、さらなる研究に向けた諸課題（アブラメの確保やPRの実施等）の解決に向けて階上町

若い力が漁業の新時代を切り開く

階上町のアブラメは旨い！

町の魚「アブラメ」のブランド化に向けて、階上町と官学連携協定を結び活動

青森県立八戸水産高等学校
教諭

木村文昭

1. はじめに

本校は「海・船・水産物のスペシャリスト」の育成を目指す青森県唯一の水産高校である。海洋生産科（船舶システムコース・漁業システムコース）、水産食品科、水産工学科と専攻科（漁業科・機関科）を設置している。青森県の太平洋側に位置し、県内の水産業に多くの人材を輩出している伝統ある水産高校である。平成30年度に創立110年を迎えた。

階上町は、八戸市の南側の岩手県との県境に位置し、漁業や農業が基幹産業の町である。人口は約1万4000人であり、八戸市に隣接しているため、本校にも多くの生徒が通学している。町の魚に「アブラメ」を制定している。

2. 研究から連携へ

「刺し身は時間を置いた方が旨い」という話がある。「確かめてみよう」……生徒の話し合いの中で出たこの会話から研究が始まった。生徒の素朴な疑問が、これまで

との連携を模索し、昨年度「階上町と青森県立八戸水産高等学校との官学連携に関する協定」の締結に至った。

階上町や関連機関のバックアップにより、研究活動はより活発化し、校内でも4つの学科「海洋生産科、水産食品科、水産工学科、情報通信科（昨年度までで閉科）」が連携して活動することにもつながった。

3. 連携の内容 (昨年度までの実績)

(1) ブランドアイナメの追究

本校全科の課題研究班がブランドアイナメの追究という共通のテーマの下に連携し、各科の特徴を生かした研究を開始した。海洋生産科では「旨みの分析とPR活動」、水産食品科では「アブラメを使った商品開発」、水産工学科では「アブラメの無水輸送技術の開発」、情報通信科では「イメージキャラクターおよびPR用ポケットティッシュデザイン」の作成」を実施した。

(2) 町のイベントでPR活動

階上町の海沿いに昨年度「はしかみハマ



いちご煮祭り

5年間の研究そして官学連携につながっている。「旨み成分の分析」のために利用する魚は階上町出身の生徒の案によりアブラメ（標準和名アイナメ）に決まった。県内の主な釣りの対象魚種であり、沿岸漁業でも多く漁獲している魚種である。これがアブラメ研究の始まりである。

アブラメは、当時の担当教員とつながりのあった階上町の漁師から入手することになった。

入手したアブラメを比較分析し、やはり

の駅あるでい〜ば」がオープンした。生徒はそこで開催されるイベントでアブラメの試食やアンケート調査を実施したり、アブラメPR用ポケットティッシュの配布を行った。また、1周年感謝祭には本校の「八水大漁太鼓」の演奏や実習船青森丸で漁獲したメバチの即売会を行い、大盛況であった。



階上町シンボルキャラクター
あぶらめくん



はしかみハマの駅あるでい〜ば 1周年感謝祭